

財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査
平成22年8月東北分（新潟を含む東北7県）」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力株取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成22年8月東北分（新潟を含む東北7県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード…天候（現状）、エコカー購入補助金（現状）
- ・マイナスのキーワード…天候（現状、先行き）、為替・株式（現状、先行き）、デフレ・低価格（現状、先行き）、エコカー購入補助金（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「42.9」（▲8.4）は、前月を下回り、「横ばい」を示す50を2か月ぶりに下回った。
- ・家計動向は、景気対策としてのエコカー購入補助金は引き続き一定の効果が見られる。一方、先月から続く猛暑は、季節商材を中心に需要を喚起したものの、高齢者等の客足に影響を与えており、消費者の低価格志向や節約志向も依然として続いている。DIは「44.2」（▲7.6）と2か月ぶりに前月を下回り、「横ばい」を示す50を下回っている。
- ・企業動向は、猛暑が続いたことから農産物（果物）や飲料品に動きがみられたものの、企業経営は受注の低迷や価格競争の激化など厳しい状況が続いているのに加え、一部に円高・株安による影響が出てきている。DIは「38.4」（▲12.2）と前月から2けたの大幅減で、「横ばい」を示す50を大幅に下回っている。
- ・雇用動向は、一部に求人数や求人倍率の改善がみられるものの、依然として雇用調整を実施する動きが続いているほか、直接雇用の場合でも短期有期雇用が多いなど、雇用環境は厳しい状況が続いている。DIは「43.2」（▲5.7）と2か月連続で前月を下回り、「横ばい」を示す50を下回っている。

(3) 先行き判断（3か月前の見通し、方向性）

- ・先行き判断DI「37.6」（▲7.8）」は、前月を下回り、「横ばい」を示す50を4か月連続で下回った。
- ・家計動向は、消費者の低価格志向や節約志向に変化がみられないなかで、猛暑や政策効果終了の反動に対する懸念に加え、政治や為替・株式の動向から先行き不透明感が増している。DIは「37.6」（▲6.4）と2か月連続で前月を下回り、「横ばい」を示す50を大きく下回っている。
- ・企業動向は、受注低迷や価格競争の激化など厳しい状況が続くなか、為替・株式の動向や政策効果の終了に伴う反動が懸念されている。DIは「39.0」（▲9.1）と前月からマイナスに転じ、「横ばい」を示す50を大きく下回っている。
- ・雇用動向は、一部で求人改善など明るい兆しがみられるものの、雇用調整の継続や短期有期雇用など厳しい雇用環境は変わらない。DIは「35.2」（▲13.7）と2か月連続で前月を下回り、「横ばい」を示す50を下回っている。

(4) 基調判断（8月）

- 今月の基調判断…東北地域の景気は「厳しさが続くなかで、持ち直しの動きに減速感が出ている」（下方修正）

・消費者の節約志向や雇用環境の厳しい状況が続いているなかで、景気対策や猛暑により一定の需要効果がみられるものの、政策効果終了や猛暑の反動に対する懸念に加えて、政治や為替・株式の動向から先行き不透明感が増しており、総合的には、厳しさが続くなかで、持ち直しの動きに減速感が出ていると判断される。

以上

<添付資料>

- 調査結果の概要

<お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター（担当：木村）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

【調査結果の概要】

1. 今月のDI※

(1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、42.9（前月比▲8.4ポイント）と、前月を下回り、横ばいを示す50も2か月ぶりに下回った。

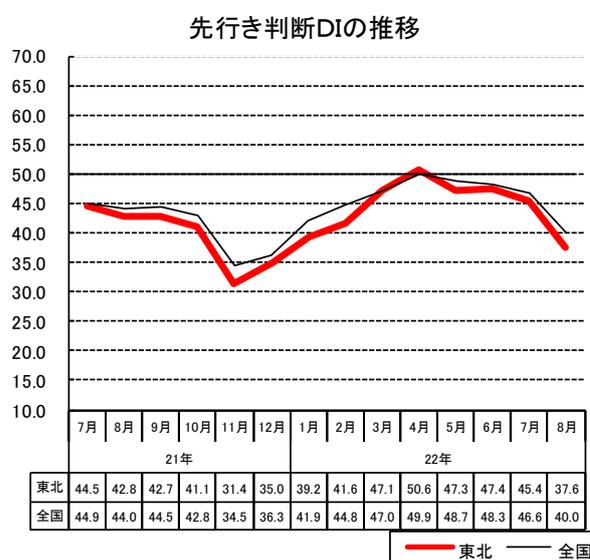
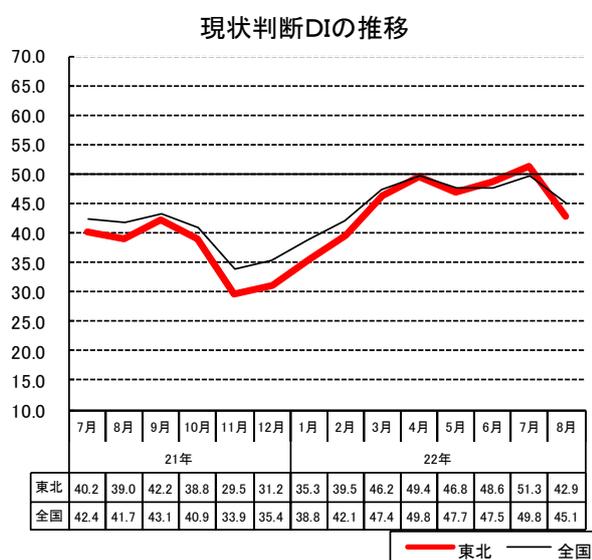
	21年						22年							
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
東北現状	40.2	39.0	42.2	38.8	29.5	31.2	35.3	39.5	46.2	49.4	46.8	48.6	51.3	42.9
家計動向関連	39.1	36.9	42.0	37.1	27.4	29.5	34.3	38.4	45.4	46.9	44.3	48.3	51.8	44.2
企業動向関連	47.0	46.3	40.9	43.1	35.3	35.0	40.6	43.9	49.4	56.9	53.1	47.4	50.6	38.4
雇用関連(参考)	34.5	38.1	46.3	41.7	32.1	35.7	32.1	37.5	45.5	51.2	51.2	52.4	48.9	43.2

(2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、37.6（前月比▲7.8ポイント）と、前月を下回り、「横ばい」を示す50を4か月連続で下回った。

	21年						22年							
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
東北先行き	44.5	42.8	42.7	41.1	31.4	35.0	39.2	41.6	47.1	50.6	47.3	47.4	45.4	37.6
家計動向関連	43.1	42.3	42.5	40.4	30.9	33.6	38.3	40.3	46.5	50.4	46.3	46.5	44.0	37.6
企業動向関連	47.0	45.0	42.1	41.9	32.1	36.9	45.0	45.1	48.1	50.6	49.4	47.4	48.1	39.0
雇用関連(参考)	48.8	41.7	45.0	44.0	33.3	40.5	33.3	43.8	48.9	52.4	50.0	53.6	48.9	35.2

※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。



景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、厳しさが続くなかで、持ち直しの動きに減速感が出ているとのことである。

2. 調査の概要

調査期間 平成22年8月25日～平成22年8月31日

回答者数 200/210名、回答率95.2%（全国1,843/2,050名、89.9%）

3. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（衣料品専門店）…今年の夏は暑く、半袖、サマースーツ等の夏物需要が例年の勢い上回る売行きで、売上全体を押し上げている。また、例年と比べ来客数が大変多くなっている。

（人材派遣会社）…正社員として採用したいという問い合わせが増えてきている。

○「やや良くなっている」

（百貨店）…気温の変化に対応した季節商材の打ち出しに客の反応がある。また、セールの好調も目立っていることに加え、中元ギフトの売上も好調に推移している。

（スーパー）…猛暑の影響で、前年の 1.5～2 倍の売行きとなる夏物商材も沢山出てきており、全体の販売量が伸びている。

（コンビニ）…猛暑の影響で、清涼飲料やアイスクリーム、冷し麺といった季節商材が好調に推移している。

（家電量販店）…液晶テレビ、エアコン、冷蔵庫が好調に動いている。特にエアコンはメーカーの生産が追いつかないほどの売行きをみせている。

（乗用車販売店）…8月に入って、エコカー購入補助金の駆け込みが本格化してきている。

（農林水産業）…7月の梅雨明けから猛暑が続いたため、桃の品質がととても良く、売行きも好調となっている。また、贈答品の注文も前年並みとなっている。

（職業安定所）…新規求人数、有効求人数共に、前年同月比で2か月連続の増加となっている。

○「変わらない」

（医薬品販売店）…猛暑で、夏物商材、飲料、滋養強壮剤、栄養剤、日焼け止めなどが良く売れている。ただし、必要なものしか購入しないという客の傾向は強くなっている。

（スーパー）…猛暑の影響で飲料系は伸びたが、逆に売上が落ち込んだ部門も多い。お盆商戦も13日だけが伸び、その前後の買い控えがより際立っている。

（ガソリンスタンド）…猛暑によりガソリンの販売量は増加しているが、円高の影響で仕入価格が下がり、それ以上に販売価格が低下したため、業務利益が減少し、経営状態が悪化している。

（観光型ホテル）…暑い日が続いたので、客の足が温泉に向いていない。インターネット予約については、プランによって客の増加もみられるが、デフレ傾向から、通常予約の客については良い状況にはない。

（旅行代理店）…個人旅行の最繁忙期だったが、宿泊を伴う国内旅行が大きく前年を下回っている。前年は9月の大型連休で分散化したが、それを下回る結果となったことが非常に痛手となった。海外旅行は円高の影響からお得感が増し、ハワイ、欧州の販売が伸び、団体旅行は地域の大型団体の取扱により好調である。

（美容室）…夏はヘアカットやヘアチェンジをする客が多いが、猛暑による出控えから来客数が減少している。

（木材木製品製造業）…住宅着工が関東地区を中心に堅調なため、部材の需要が比較的順調に推移している。

（広告代理店）…包装紙やスーパーバック等の資材品の注文量が増えない。

（人材派遣会社）…「専門26業務派遣適正化プラン」により派遣の利用範囲が狭まりつつある。代わって直接雇用が増えつつあるが、雇用条件は派遣社員の待遇より悪い場合も多く、期間も短い有期雇用ばかりで雇用状況は改善されていない。

（職業安定所）…休業などの雇用調整を継続している企業が依然として多い。

(職業安定所) …新規求職者は依然として前年比で増減を繰り返している。新規求人は前年比で増加しているものの、臨時やパート等の求人が多く、有効求人倍率は低迷が続いている。

○「やや悪くなっている」

(百貨店) …例年だと既に動いている秋物商材、特に衣料の動きが、暑さの影響もあり悪い状況となっている。

(一般レストラン) …猛暑により来客数は前年並みだが、客単価が、昼、夜共に15%減少し、財布のひもが固い状況が続いている。

(出版・印刷・同関連産業) …複写式の伝票や書類の作成を取りやめ、パソコンを使い自社で打ち出すようになった取引先が多くなっており、売上は3か月連続で前年割れとなっている。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、急激な円高で輸出環境が急速に悪化し、業績に悪影響をもたらしている。

(通信業) …既存契約の更新の際にも入札となるケースが増えており、落札するのも困難な状況となっている。

○「悪くなっている」

(スーパー) …円高が更に進み、デフレ傾向が一段と鮮明になってきており、客の購入単価が下がっている。また、物価の下落と共に販売量、販売額がますます減少している。

(衣料品専門店) …猛暑が続くなか、来客がない日もある。

(都市型ホテル) …前年の冷夏から一転猛暑となり、宿泊部門においては期待した海水浴客、レジャー客が逆に減少している。また、高速道路無料化などの影響もあり、最大の集客エリアである関東圏の客が更に遠方に足を延ばした様子がうかがえる。

(食料品製造業) …市場では低価格商品が売れており、流通からは低価格商品の提案要請があるが、メーカーは非常に厳しい状況にあり、対応に行き詰っている。

(飲食料品卸売業) …非常に暑い日が続き清涼飲料水は売れたが、他の商品は動きがほとんどみられない。加えて、売れている商品はメーカーの欠品などがあり、販売量は前年比でほとんど変わっていない。

(人材派遣会社) …受注減に加え、労働者派遣法の改正を見越した直接雇用へのシフトが加速的に進んでおり、契約満期の直接雇用が前年比50%増となっている。

(2) 先行き判断理由

○「良くなる」

(食料品製造業) …猛暑の影響も落ち着くことに加え、需要期に入るため、例年並の売上が期待できる。

(人材派遣会社) …求人を継続して行っている企業や新卒の採用を再開する企業が増えており、今後動きが良くなることが期待される。

○「やや良くなる」

(観光型ホテル) …2～3か月先の予約状況を見ると、前年よりも団体客、特に関東以西の客の予約が目につく。

(住宅販売会社) …建築物件の受注は大変好調である。一方、個人向けの住宅の受注に関しては成約に至るまでの期間が長くなっており、今後、新規受注の伸びが期待されるのは3か月ぐらい先になってからである。

(農林水産業) …前年は果樹全体が非常に安値だったが、この夏は猛暑で桃が高値で取引されており、農協出荷の清算書に期待が持てる。

(職業安定所) …有効求人倍率が、一進一退を繰り返しながらも0.3倍台になるなど、明るい兆しが見えつつある。

○「変わらない」

- (スーパー) …猛暑により、水産物、農産物共に前年と全く違う動きをしている。さんまは前年の50%を下回る売上高のため、今後の漁獲量によっては販売商品を再考しなければならない。
- (住関連専門店) …例年であれば秋商戦に入る時期だが、今年は猛暑のため、家具などの耐久消費財の動きが鈍くなることが予想される。また、住宅版エコポイントやリフォーム減税の恩恵はまだ出ておらず、しばらくは現在の状況が続く。
- (観光型旅館) …例年9月は閑散期であり、10月、11月の紅葉期も2週間程度しか集客が期待できない。さらに、夏の猛暑により紅葉の色付きが悪くなる傾向があるなどの不安材料もあり、このまま低調な状態が続くことが予想される。
- (旅行代理店) …個人旅行の主力商品となる企画商品(交通と宿泊)の先行受注は回復しないが、海外旅行は円高により相談件数が増えている。総取扱で比重の高い国内旅行で回復しなければ、全体の取扱額は減少となるが、団体旅行の先行受注が比較的順調なため、販売額は変わらず推移する。
- (飲食料品卸売業) …飲食店の低価格化が進み、単価の圧縮が顕著である。販売量は増えるものの売上は増えず、中規模業務用小売店の経営を圧迫する状況が続く。
- (金属工業協同組合) …円高の輸出への影響から更なるコストダウンの要請が懸念される。また、正式発注から納品までが超短納期となっており、その対応コストが大きいため、受注に結び付きにくくなっている。
- (職業安定所) …休業などの雇用調整が引き続き実施されることが予想される。
- (職業安定所) …有効求人数は4か月連続で前年を上回っているものの小幅な伸びにとどまっている。短期の求人が多く、常用が増加していないことから、この状態がしばらく続くと予想される。

○「やや悪くなる」

- (百貨店) …今後、気温が例年より高めに推移する予報が出ているので、秋冬物の動きがどうなるのか不安である。
- (コンビニ) …10月からのたばこ増税の影響で、来客数は減る見通しである。
- (靴専門店) …残暑がきつく、季節商材に例年並みの動きが期待できない。
- (電気機械器具製造業) …会社としてはまだ直接の影響は受けていないが、海外向け製品も多く取扱っているため、今後は円高、株安の影響により、業績の悪化が予想される。
- (広告業協会) …猛暑による消費の減退で、広告費を抑える大型小売店なども出てきており、先行きの悪化が懸念される。
- (人材派遣会社) …求人企業と求職者の意識の乖離がミスマッチや士気の低下につながっており、企業全体としての競争力低下に拍車がかかることが懸念される。
- (職業安定所) …新規求人は増加しているものの増加率は低調であり、新卒者向けの求人は低調である。

○「悪くなる」

- (スーパー) …物価の下落、デフレ及び円高の進行により、販売量、販売額の低下が懸念される。
- (乗用車販売店) …補助金効果によるエコカー需要が大きかった分、反動減も大きくなると予想される。
- (一般機械器具製造業) …自動車部品については、エコカー購入補助金の終了により、国内需要が急激に減少することが予想される。加えて、円高が続けば輸出環境は更に悪化し、業績に悪影響を及ぼすことが懸念される。
- (人材派遣会社) …次期国会で労働者派遣法の改正が具体化されることにより、企業における外部人材の活用意欲は更なる減退が予想される。